

# 各地区で敬老会開かれる



第764号  
 発行人 ● 豊丘村公民館  
 館長 市澤和宏  
 編集人 ● 長野県下伊那郡  
 豊丘村公民館報  
 編集委員会  
 0265-35-9066  
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村  
 (10月1日現在 ※外国人を含む)  
 男 3,248人  
 女 3,255人  
 総人口 6,503人  
 世帯数 2,249戸

## まだまだ若いお年寄り

九月十六日月曜日は敬老の日でしたが、村内九地区では敬老祝賀行事が行われました。昨年度より村での敬老会はなくなり、各地区で七十五歳以上の方を対象に催されておりまして、食事を取りながら、出し物など楽しんでもらう計画が立てられました。田村区と福島区では九月十五日と十六日で開催されました。

### 第四回 田村区敬老会

田村区長 辻元美郎

厳しい残暑が続く中、九月十五日に、令和六年度「田村区敬老会」をゆめあるて大ホールにて開催致しました。

来賓として、下平村長、片桐社協会長、松村健康福祉課長のご臨席を賜り、賑やかに出来ました事は、大

変嬉しく思っております。田村区の敬老会は、今年で四回目の開催になります。七十五歳以上の三百七十七名の皆様に招待状を差し上げ、百三十名の過去最多の出席を頂きました。

区の委員十五名、役場職員の協力員三名、民生児童委員四名、ボランティア三名がスタッフとして会合を重ね、各担当を決めて、如何に皆さん楽しんでもらえるか、試行錯誤してまいりました。特に余興については頭を痛めました。楽しかったという声を聞き、ホッとしております。

午前十一時の開会から午後一時半の万歳まで、短い時間でしたが、有意義に過ごす事ができました。

ご健康とご多幸を祈念申し上げ、来年の敬老会にお会い出来る事を約束して、長寿万歳で締めました。

### 福島区敬老会

福島区長 片桐義徳

福島区の敬老会が九月十六日に開催されました。対象者が四十人のうち二十三人の出席をいただきました。来賓に下平村長、片桐社協会長をお願いし、開会式の後まず飯田マジッククラブの二人の素晴らしい演技に歓声と拍手で楽しみました。その後会場を食事に活用し模様替えし、乾杯の後プロとアマの歌手による歌謡ショーに入りました。歌手とのデュエットを楽しみにしていた人もいて次々と歌い大いに盛り上がりま

た。歌手とのデュエットを楽しみにしていた人もいて次々と歌い大いに盛り上がりま

た。歌手とのデュエットを楽しみにしていた人もいて次々と歌い大いに盛り上がりま

た。歌手とのデュエットを楽しみにしていた人もいて次々と歌い大いに盛り上がりま



福島区の敬老会は、これまでボランティア団体の「にこにこ会」が食事を発行していたものを平成二十八年から敬老会として行うようになり、コロナ禍で三年休んで昨年再開して今年で六回目になりました。

当初三十人弱の対象者でしたが、団塊の世代が昨年と今年で十三人が対象となり、四十人になりました。都合で出席できない方もいますが、これからも大勢の皆さんに出席いただきたいと思っております。

やっと涼しくなると、いよいよ食欲の秋、スポーツの秋です。私としては、スポーツで汗を流した後のビールが格別でして、おいしい焼肉なんかあれば最高です。まさにスポーツの秋。食欲の秋です。▼昨今若年層のスポーツ人口の減少傾向が見られます。原因はいろいろ考えられるようですが、両親がスポーツにかかわる時間が少ない家庭の子供は運動があまり好きではない傾向もあるようです。▼今の世の中が忙しすぎることもあるのかもしれませんが、以前は早起き野球、ママさんバレー、運動会、部落対抗競技(今は自治会)などたくさんの方々の行事があり、皆が何らかの行事に参加し、盛大に慰労会をして親睦を深めていました。すべてに進んで参加したかは、異論もあるとは思いますが、今よりも親が楽しくスポーツをする姿を見て、スポーツに興味を持った子がいたのではないのでしょうか。「スポーツって面白そう」って思うところがあったと思います。飲みニケーションというのも、賛否両論ですが、大人だって、少しアルコールが入った方が親睦は深まるのではないかと、呑み助の私は考えます。▼大谷選手やパリ五輪を見てもスポーツは私達に元気をくれます。楽しくスポーツをしてみんなで元気になりましょう。そして楽しく飲みましょう。

### 第5回 公民館学習会

令和六年度第五回公民館学習会が、九月五日にゆめあるてで開催されました。今回の学習会は、「インクルーシブな社会のためにいま私たちができること」と題し、南信教育事務所飯田事務所の板倉主任指導主事に講演いただきました。インクルーシブとは、直接

的に言えば「包摂(ほうせつ)的な」とか「包括的な」「すべてを包み込む」という意味です。「持続可能な社会・経済・環境」を目指す世界共通の目標であるSDGsにも十七項目ある目標の内、五項目で使用されています。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓うSDGsは、あらゆる人が排除されないことを意味するインクルーシブと、非常に近い

理念といえます。教育の場面でも、インクルーシブ教育という言葉があります。インクルーシブ教育は、すべての子どもが同じ場所や同じ機会や学べる教育のことです。「障がいのある子どもと一緒に」という文脈で語られることが多いですが、広い意味では、国籍や言語などの違いも受け入れ共生していくための教育といえます。障がいの有無や性別、人

種など、私達には同じ人間であっても様々な違いがあります。このような違いを認め合い、すべての人がお互いの人権と尊厳を尊重し合いながら生きていく社会を築いていかなければなりません。私たちができることは、正しく知ること、想像力を働かせること、コミュニケーションをとること、行動の輪を広げることが挙げられます。ただ見

は何も変わりません。あなたの踏み出す一歩が社会を変えることに繋がります。皆さんもできることから始めてみましょう。(公民館主事 辻元慎二)



吉田 裕

### 段立

# 公民館報『とよおか』 五大ニュースをさかのぼる

## (九) 昭和49年

①2年近く空席となっていた河野診療所。3月に韓国から崔医師が着任。人柄の

良さは定評があった。戦前の日本語教育を受けていたので言葉の問題はなかった。

1	診療所に医師来村	57票
2	四水道統合なる	52票
3	米価闘争で初の出庫実力阻止	47票
4	商工会館完成	41票
4	工事進む県住、慈恵園	41票

②このころまで村内の水道は、それぞれの地域が水源を確保し独自に運営していた。この年に河野、田村、林小園の水道が統合され、村営水道となった。なお、水道には上水道と簡易水道があり、上水道は給水人口5千人以上、簡易水道は5千人以下と決まっている。豊丘村では平成になるまで簡易水道だった。

③第二次世界大戦中に米の安定的な生産と供給のために

に作られた食糧管理制度。1995年の廃止までコメの生産者価格は国が決めており、農民や農協が米価闘争を繰り返した。6月、農協河野事業所倉庫前に約200名の農民が座り込み出庫を阻止。出庫予定の約1000俵を200俵たらずに抑えた。

④10月に新しく商工会館が完成し、役場の敷地内にあった商工会の機能が移転。総費用2200万円のうち国庫補助金400万円、村費補助700万円。業務の中心は村内商工業者への指導で、経営、金融、税務、労働などの相談が増えていた。

⑤児童養護施設慈恵園は伊賀良にあった建物の老朽化のため村内に移転が決まる。用地は伴野慈恵院付近、小原市の中学校横などが候補

親しまれている。彼女の歌唱力や演技力は非常に高く評価され、数々の映画や舞台作品にも出演しその才能を十分に発揮してきた。日本の芸能界において数々の賞を受賞し、その活躍は日本の音楽史において不朽の名声を築き上げている。人間性や温かさも多くの人々に愛される理由の一つであり、ファンから絶大な支持を得ている。九歳の時NHKの素人のど自慢に出場した時のこと、「歌は抜群にうまいが子供らしくない。非教育的だ、などの

理由で合格にできない」とされた。翌年のど自慢大会後、古賀政男に直接懇願し正式に歌手として認められ十一歳でレコードデビューした。ざっと挙げただけで「港町十三番地」「車屋さん」「真つ赤な太陽」「柔い川の流れのように」「悲しい酒」などがある。いろいろなジャンルを歌いこなしてしまふ。耳が良いということらしい。

に挙げたが、林原で着工。★この年の出来事 東アジア反日武装戦線、東京丸の内三菱重工ビルを爆破。小野田寛郎元少尉、フィリピン島のバンガ島から30年ぶりに帰国。ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任

★この年のヒット曲 『なみだの操』殿様キングス 『あなた』小坂明子 『うそ』中条きよし

監修：筒井 芳夫さん 吉川 達郎さん 文責：壬生 雅穂

夢みた遠か地平線 17 バングラデシュの農村で 日本人が襲われてしまう 北市場 福澤郁文

私たちが農村開発の拠点として、協力を始めていたポイラ村で強盗事件が起きてしまった。強盗団は事務所を現金を盗み、駐在員をめった打ちにし逃走したらしい。二人が瀕死の重傷を負ってしまった。私も推薦し送り出した仲間でもあり、その事件を知り心配と哀しみで胸が痛くなった。東京の事務所では大騒ぎとなった。

そのころ僕は勤めていたデザイン会社を辞め独立した。狭い事務所の空間でバングラデシュ支援の活動も担っていた。夕方になると活動メンバーたちが、わが事務所が集まってきた。夜遅くまで議論を続ける。朝まで泊まり込む仲間もいた。

手探り状態で活動をすすめていく 一九七〇年代の頃には、海外協力の理念や活動方針など、統一された考えを組織は言葉にできてはいなかった。 バングラデシュ側からは、東京本部の事務局体制の不備を指摘されていた。両国の間でのコミュニケーション不足、現地と、日本の活動メンバーとの支援協力の意識の違いも、広がっていったように思う。

『子どもの教育こそが重要だ』と理想を求める日本人と、食糧生産への援助など、現実的な支援を求めるバ・農民たちと。 女性の収入向上を目的とした、手工芸品

プロジェクトの方は順調に伸びていた。手工芸品の販売により、僅かな収入も得られるようになってきていた。組合に参加する女性のなかにはリーダーも育ってきた。教師を辞めて、組合リーダーを担う女性に活動をまとめていく力があつた。ポイラ村での手工芸品制作の活動を進めていた。

そんな折に日本人のスタッフとの間に、『いつしか恋が芽生え...』ていたらいいのだが、恋の話までは日本にいる我々にはわからなかった。資金集めやイベントに追われる東京事務所では、専従スタッフを置けないまま、バングラデシュ側を充分にサポートできない状況と資金不足が続いた。

変革を目指す海外協力の活動体として 一九七〇年代には国際協力に対し、日本と欧米の援助団体には大きな違いがあった。社会的な認知も寄付の規模も、欧米の団体とは桁違いだった。組織も金額も...

ボランティアという無償での救援事業、アジアの貧困問題や国家間の経済格差など『南北問題』といわれ、日本の果たすべき役割まで問うなど、参加して行く活動仲間たちの意識もまた多様であった。

自らの意識を乗り越えられるのか...貧困の国バングラデシュに関わるには、自らの意識変革すらも問い直されていた時代ともいえる。『組織のなかでがんじがらめにされている自分の姿...』『行動を起こすにも道徳的に縛られている自分...』などみな、次へのステップが踏み出せない。

国際協力の分野でも、組織化も資金確保も必要なのに、難題がいつもおきてきたように思う。バングラデシュの貧困問題を、世界の構造的な問題としてとらえ活動していた。

『貧しい国への援助』の活動でいいのか? 独立間もない国、バングラデシュが自立するために、なにができるのかと、あの時代、理念など、活動の方向性を定める言葉と手段を模索していた。それに専従スタッフすら置けない体制では、活動は続けられないと...

欧米の援助団体とは異なり、寄付の規模も社会の意識も日本ではまだ未熟であり、我々は苦悩していたが意志は消えていなかった。

一九七〇年代の後半、米軍によるベトナム戦争により、多くの難民が国境に逃れていった時代、日本にNGOといわれる多くの救援団体が誕生した。多くのボランティアが難民支援の活動を始めた。この時代がグローバル市民活動のはじまりともいえる。国連や国家や政治を超え『市民の救援』が誕生していった時代である。国連との連携もはじまる。

世界の貧困や難民救済に対する社会の意識が、目を見張るほど急激に変化してきたのがわかった。同じような目的を持つ市民のボランティア組織が、次から次へと我が国にも誕生してきたのであった。

バングラデシュの家族の一日の糧は、男たちの厳しい労働の下にある

残念ながら病魔に倒れ一九八九年に五十二歳の若さで亡くなった。没後三十五年というのに多くのテレ

歌は世につれ~ 三十七話 美空ひばり

南市場 桐崎 長一

残念ながら病魔に倒れ一九八九年に五十二歳の若さで亡くなった。没後三十五年というのに多くのテレ

に挙げたが、林原で着工。★この年の出来事 東アジア反日武装戦線、東京丸の内三菱重工ビルを爆破。小野田寛郎元少尉、フィリピン島のバンガ島から30年ぶりに帰国。ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任

★この年のヒット曲 『なみだの操』殿様キングス 『あなた』小坂明子 『うそ』中条きよし

監修：筒井 芳夫さん 吉川 達郎さん 文責：壬生 雅穂

夢みた遠か地平線 17 バングラデシュの農村で 日本人が襲われてしまう 北市場 福澤郁文

私たちが農村開発の拠点として、協力を始めていたポイラ村で強盗事件が起きてしまった。強盗団は事務所を現金を盗み、駐在員をめった打ちにし逃走したらしい。二人が瀕死の重傷を負ってしまった。私も推薦し送り出した仲間でもあり、その事件を知り心配と哀しみで胸が痛くなった。東京の事務所では大騒ぎとなった。

そのころ僕は勤めていたデザイン会社を辞め独立した。狭い事務所の空間でバングラデシュ支援の活動も担っていた。夕方になると活動メンバーたちが、わが事務所が集まってきた。夜遅くまで議論を続ける。朝まで泊まり込む仲間もいた。

手探り状態で活動をすすめていく 一九七〇年代の頃には、海外協力の理念や活動方針など、統一された考えを組織は言葉にできてはいなかった。 バングラデシュ側からは、東京本部の事務局体制の不備を指摘されていた。両国の間でのコミュニケーション不足、現地と、日本の活動メンバーとの支援協力の意識の違いも、広がっていったように思う。

『子どもの教育こそが重要だ』と理想を求める日本人と、食糧生産への援助など、現実的な支援を求めるバ・農民たちと。 女性の収入向上を目的とした、手工芸品

プロジェクトの方は順調に伸びていた。手工芸品の販売により、僅かな収入も得られるようになってきていた。組合に参加する女性のなかにはリーダーも育ってきた。教師を辞めて、組合リーダーを担う女性に活動をまとめていく力があつた。ポイラ村での手工芸品制作の活動を進めていた。

そんな折に日本人のスタッフとの間に、『いつしか恋が芽生え...』ていたらいいのだが、恋の話までは日本にいる我々にはわからなかった。資金集めやイベントに追われる東京事務所では、専従スタッフを置けないまま、バングラデシュ側を充分にサポートできない状況と資金不足が続いた。

変革を目指す海外協力の活動体として 一九七〇年代には国際協力に対し、日本と欧米の援助団体には大きな違いがあった。社会的な認知も寄付の規模も、欧米の団体とは桁違いだった。組織も金額も...

ボランティアという無償での救援事業、アジアの貧困問題や国家間の経済格差など『南北問題』といわれ、日本の果たすべき役割まで問うなど、参加して行く活動仲間たちの意識もまた多様であった。

自らの意識を乗り越えられるのか...貧困の国バングラデシュに関わるには、自らの意識変革すらも問い直されていた時代ともいえる。『組織のなかでがんじがらめにされている自分の姿...』『行動を起こすにも道徳的に縛られている自分...』などみな、次へのステップが踏み出せない。

国際協力の分野でも、組織化も資金確保も必要なのに、難題がいつもおきてきたように思う。バングラデシュの貧困問題を、世界の構造的な問題としてとらえ活動していた。

『貧しい国への援助』の活動でいいのか? 独立間もない国、バングラデシュが自立するために、なにができるのかと、あの時代、理念など、活動の方向性を定める言葉と手段を模索していた。それに専従スタッフすら置けない体制では、活動は続けられないと...

欧米の援助団体とは異なり、寄付の規模も社会の意識も日本ではまだ未熟であり、我々は苦悩していたが意志は消えていなかった。

一九七〇年代の後半、米軍によるベトナム戦争により、多くの難民が国境に逃れていった時代、日本にNGOといわれる多くの救援団体が誕生した。多くのボランティアが難民支援の活動を始めた。この時代がグローバル市民活動のはじまりともいえる。国連や国家や政治を超え『市民の救援』が誕生していった時代である。国連との連携もはじまる。

世界の貧困や難民救済に対する社会の意識が、目を見張るほど急激に変化してきたのがわかった。同じような目的を持つ市民のボランティア組織が、次から次へと我が国にも誕生してきたのであった。

バングラデシュの家族の一日の糧は、男たちの厳しい労働の下にある

# 文化祭作品展が 開催されます!

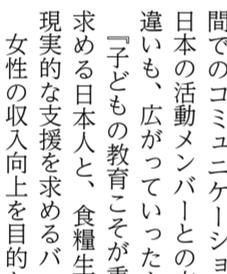
今年も公民館文化祭作品展を行います。 期間：十一月三日(日)、十一月十日(日) 時間：八時三十分、二十一時三十分 (ただし水曜日は十七時、最終日十七時三十分まで)



公民館登録グループや小学生、個人で活動されている皆さんの素敵な作品が展示されます。是非、多くの皆さんの来場をお待ちしております。

期間中、公民館登録グループの「お抹茶を楽しむ会」によるお茶会も開かれます。

日程：十一月三日(日) 十時~十五時 六人席となりまして、順次入っていただけます。お抹茶とお茶菓子で雅なひと時をいかがでしょうか。



残念ながら病魔に倒れ一九八九年に五十二歳の若さで亡くなった。没後三十五年というのに多くのテレ

に挙げたが、林原で着工。★この年の出来事 東アジア反日武装戦線、東京丸の内三菱重工ビルを爆破。小野田寛郎元少尉、フィリピン島のバンガ島から30年ぶりに帰国。ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任

★この年のヒット曲 『なみだの操』殿様キングス 『あなた』小坂明子 『うそ』中条きよし

監修：筒井 芳夫さん 吉川 達郎さん 文責：壬生 雅穂

夢みた遠か地平線 17 バングラデシュの農村で 日本人が襲われてしまう 北市場 福澤郁文

私たちが農村開発の拠点として、協力を始めていたポイラ村で強盗事件が起きてしまった。強盗団は事務所を現金を盗み、駐在員をめった打ちにし逃走したらしい。二人が瀕死の重傷を負ってしまった。私も推薦し送り出した仲間でもあり、その事件を知り心配と哀しみで胸が痛くなった。東京の事務所では大騒ぎとなった。

そのころ僕は勤めていたデザイン会社を辞め独立した。狭い事務所の空間でバングラデシュ支援の活動も担っていた。夕方になると活動メンバーたちが、わが事務所が集まってきた。夜遅くまで議論を続ける。朝まで泊まり込む仲間もいた。

手探り状態で活動をすすめていく 一九七〇年代の頃には、海外協力の理念や活動方針など、統一された考えを組織は言葉にできてはいなかった。 バングラデシュ側からは、東京本部の事務局体制の不備を指摘されていた。両国の間でのコミュニケーション不足、現地と、日本の活動メンバーとの支援協力の意識の違いも、広がっていったように思う。

『子どもの教育こそが重要だ』と理想を求める日本人と、食糧生産への援助など、現実的な支援を求めるバ・農民たちと。 女性の収入向上を目的とした、手工芸品

プロジェクトの方は順調に伸びていた。手工芸品の販売により、僅かな収入も得られるようになってきていた。組合に参加する女性のなかにはリーダーも育ってきた。教師を辞めて、組合リーダーを担う女性に活動をまとめていく力があつた。ポイラ村での手工芸品制作の活動を進めていた。

そんな折に日本人のスタッフとの間に、『いつしか恋が芽生え...』ていたらいいのだが、恋の話までは日本にいる我々にはわからなかった。資金集めやイベントに追われる東京事務所では、専従スタッフを置けないまま、バングラデシュ側を充分にサポートできない状況と資金不足が続いた。

変革を目指す海外協力の活動体として 一九七〇年代には国際協力に対し、日本と欧米の援助団体には大きな違いがあった。社会的な認知も寄付の規模も、欧米の団体とは桁違いだった。組織も金額も...

ボランティアという無償での救援事業、アジアの貧困問題や国家間の経済格差など『南北問題』といわれ、日本の果たすべき役割まで問うなど、参加して行く活動仲間たちの意識もまた多様であった。

自らの意識を乗り越えられるのか...貧困の国バングラデシュに関わるには、自らの意識変革すらも問い直されていた時代ともいえる。『組織のなかでがんじがらめにされている自分の姿...』『行動を起こすにも道徳的に縛られている自分...』などみな、次へのステップが踏み出せない。

国際協力の分野でも、組織化も資金確保も必要なのに、難題がいつもおきてきたように思う。バングラデシュの貧困問題を、世界の構造的な問題としてとらえ活動していた。

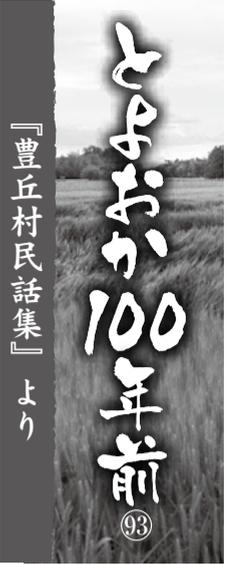
『貧しい国への援助』の活動でいいのか? 独立間もない国、バングラデシュが自立するために、なにができるのかと、あの時代、理念など、活動の方向性を定める言葉と手段を模索していた。それに専従スタッフすら置けない体制では、活動は続けられないと...

欧米の援助団体とは異なり、寄付の規模も社会の意識も日本ではまだ未熟であり、我々は苦悩していたが意志は消えていなかった。

一九七〇年代の後半、米軍によるベトナム戦争により、多くの難民が国境に逃れていった時代、日本にNGOといわれる多くの救援団体が誕生した。多くのボランティアが難民支援の活動を始めた。この時代がグローバル市民活動のはじまりともいえる。国連や国家や政治を超え『市民の救援』が誕生していった時代である。国連との連携もはじまる。

世界の貧困や難民救済に対する社会の意識が、目を見張るほど急激に変化してきたのがわかった。同じような目的を持つ市民のボランティア組織が、次から次へと我が国にも誕生してきたのであった。

バングラデシュの家族の一日の糧は、男たちの厳しい労働の下にある



『豊丘村民話集』より

六十年前の子供のおもい生活

史学会 浅井栄班

(前回のつづき)

ひまわりやかぼちゃの種の炒ったもの、冬は柿の皮。市田柿の皮は固くて甘みが少ないので食べませんでしたが、渋柿の皮と実を八つ割りにして白粉の吹いたもの、これは美味くて生田方面から計り売りに来たこともありました。

買ってもらって食べたものに生田産の山桃がありました。六月下旬に出るのが長峰桃。七月が中山桃、八月は峠桃。だんだんに標高が高くなって遅れるほど味が悪くなりました。今の桃から見れば桃とは名ばかりのものでした。菓子ぐるみ大の大きさを毛深く、柴枝でパツパツとはたいてから二つに割ると中から虫が出て、

うに出回ります。幼稚な放任栽培であったオランダいちご。甲州ぶどうと言われ半分青くて半分しか紫色に熟さなかった酸いぶどう。これらも品種の大改良と栽培技術が進歩し各家庭に見受けられます。

この地方では栽培できぬとされていたリンゴ。結婚式に呼ばれて一個付いたのを家内中で分割して食べるか、風邪にでも罹ってご飯代わりに二個くらい買ってもらった善光寺産の国光が二、三年に一個くらいしか口に入りませんでした。しかしこの地方が産地として自給果樹となり秋から翌年の六、七ヶ月の期間、思いのままに子供らは食べ、かつてはこれを貴重品とした祖父の時代を知らない。何よりも経済の充実により暖地産ミカン、外国産のネーブル、バナナ等市場に

河野1分館 学習会 河野音頭の継承 分館長 松川忠司

例年我が分館では、夏祭りと区民運動会の中で「河野音頭」を踊ってきました。自分の立場(役職)で踊りながら観察してみると、見学している大人、踊れない若い世代、知らなくても輪に入ってくる子供達といった様子で、何とか出来ないかとつぶやいていたら、役員の方々の賛同を得て決定

要はなくなりませんでした。誠にめでたいことであり発展方向一途に永続せられんことを願うものであります。(出席者：松川利一、毛涯広、市沢正計、市沢治助)

ました。目的は踊りを習得してもらう事です。分館員に聞いた所、二割は知りませんでした。史料の方は区長からいただき、読みあさっていると製作には河野公民館、作詞は旧河野村、村民、作曲は中山晋平、そして現行の音源の歌い手も地元の人々と知り、大変驚いたのと同時に継承していかなければならないと感じました。分館役員が進める中で、踊りの習得だけじゃなく、地元製作の歴史や、作曲家中山晋平について等を盛り込んだ資料作成をしました。

当日、会場は北小学校体育館をお借りして、河野音頭の歴史、作曲家中山晋平の紹介、あと体験談として当時の様子を話して頂きました。そして最後は十分程踊りの練習をして、普段は聞けない八番から十三番までを通して踊りお開きとなりました。ほぼ一時間という時間でいろいろな出来栄があったと思います。総勢二十人という事で集客の難

片桐 洋子 森田 恵子 木下 眞水 松岡 照子 宮下 純子 丸山 時子 林 恵美子 矢島千勢子

列島の中央威す台風来 満天掻き荒ぶる竜の夕焼 きちさちの手作り籠の藍深む 病みぬきし泪ざっくり石榴の実

しさを体感しました。河野音頭を今回勉強してみようと思った事は、分館が率先して次世代につないでいかないといけないという事。今後いろいろなアプローチを考えて実践していきたいと思えます。

満州開拓を体験された方々からの聞き取りと、満州移民、満州開拓青少年義勇軍に関する調査報告の報告が記されています。第五集では六名の方々の生まれや家族、満州に渡った経緯、当時の思い出や生活の様子、引き上げでの体験、そしてその後の暮らしが語られています。冬は極寒の地となる満州では、大変ではあったけれども、穏やかに暮らしていたそうです。しかしながら、引き上げ時には、仲間とともに敷の中を身を隠しながら進み、収容所では、蔓延する感染症で大勢の人が亡くなっていくのを目の当たりにしたそうです。辛く悲しい体験をしながら、それでも希望を失わず、前向きに生きようとした姿に胸が締め付けられます。

こちら資料館 資料館特別展のご案内

今年度の資料館特別展を来月一月三日(日)～一〇日(日)の八日間、公民館の文化祭作品展に合わせて「ゆめあるて」の玄関

ホールと展示ケースを使って開催します。今回は、河野出身の官僚で戦前の会計検査院長・貴族院議員を務めた河野秀男氏をとりあげます。既にこのコーナーで紹介済みですが、昨年、氏のお孫さんより秀男氏の遺品で河野の旧宅に保管してあった物を資料館に預けたい旨の申し出があり、今年八月に寄託の手続きが完了しました。そこで、今回は寄託品の一部を展示公開すると共に、

河野秀男氏の人と仕事について広く村民の皆様にご覧いただくことを目的に展覧会を企画しました。主な展示品は次の通りです。大礼服、天皇の御名御璽の入った辞令、会計検査院時代の履歴書、自筆の日誌(明治三十七年～四一年)、戦前の首相を務めた近衛文麿の揮毫が記載された折れ本、河野秀男氏本人の書、友人の寄書き、葬儀のアルバム、弔辞、他。



大礼服姿の河野秀男氏

ものとしては、昭和三五年に河野秀男先生歌碑建設委員会が編集した「河野秀男先生小伝」という数ページの小冊子と平成六年に豊丘村教育委員会が発行したこの小冊子を再版したものがあります。これに今回寄託いただいた資料から分かることを加えて、河野秀男氏の生涯を写真とエピソードでたどる掲示物を現在準備中です。なかなか秀男氏の人柄を浮き彫りにするところまではできません

資料館主任 唐澤武彦

図書館だより 10月号

移動図書のご案内 十一月の移動図書 一日(金) 壬生沢福島 集落拠点施設 五日(火) 伴野勤労者福祉センター 時間 午後八時～九時

聞き書きと調査研究 下伊那から満州を考える会 満州移民を考える会

満州開拓を体験された方々からの聞き取りと、満州移民、満州開拓青少年義勇軍に関する調査報告の報告が記されています。第五集では六名の方々の生まれや家族、満州に渡った経緯、当時の思い出や生活の様子、引き上げでの体験、そしてその後の暮らしが語られています。冬は極寒の地となる満州では、大変ではあったけれども、穏やかに暮らしていたそうです。しかしながら、引き上げ時には、仲間とともに敷の中を身を隠しながら進み、収容所では、蔓延する感染症で大勢の人が亡くなっていくのを目の当たりにしたそうです。辛く悲しい体験をしながら、それでも希望を失わず、前向きに生きようとした姿に胸が締め付けられます。

満州開拓を体験された方々からの聞き取りと、満州移民、満州開拓青少年義勇軍に関する調査報告の報告が記されています。第五集では六名の方々の生まれや家族、満州に渡った経緯、当時の思い出や生活の様子、引き上げでの体験、そしてその後の暮らしが語られています。冬は極寒の地となる満州では、大変ではあったけれども、穏やかに暮らしていたそうです。しかしながら、引き上げ時には、仲間とともに敷の中を身を隠しながら進み、収容所では、蔓延する感染症で大勢の人が亡くなっていくのを目の当たりにしたそうです。辛く悲しい体験をしながら、それでも希望を失わず、前向きに生きようとした姿に胸が締め付けられます。

豊柳会 柳 課題「食」 福沢勝美 選 柿を食べる迄冷凍の干柿が 安田 喜子 知事職に食らい付いての見苦しさ 山本 義彦 スーパーの食品豊富平和から 林 もも子 軸吟：食足りて飢える難民忘れがち

自由吟 山本義彦 選 米不足何のことかとコンバイン 原 美風 年重ね甘いモロコシ遠花火 市沢 照子 軸吟：迷走し日本列島水浸し

# ~シリーズ~ 豊丘の自然

No.249

## ルリボシヤンマ・オオルリボシヤンマ (ヤンマ科)



今月はルリボシヤンマ(右)とオオルリボシヤンマ(左)について書く。

実は、この二種の間には意外な関係があるらしい。ルリボシヤンマはオオルリボシヤンマより小規模な水域を選び、時期も若干遅く比較的大きな池ではオオルリボシヤンマが姿を消す時刻になってから雌が次々産卵にきたり、雄がパトロールしたりして、時間的なすみ分けもしているらしい。まるで、月と太陽のように興味深い関係だが、なぜ、そこまで、オオルリボシヤンマを避けるのだろうか。体長はルリボシヤンマが七十二〜八十八mm、オオルリボシヤンマが七十七〜九十三mmと五mmの違いが、そうさせているのだろうか。



山田 拓



写真のポイントを紙面で解説して来ましたが、もっと詳しく学びたいという言葉を目にします。そこで小学生から高校生を対象にサークルを立ち上げたいと考えました。詳しくは公民館までお問い合わせください。

コロナ禍が落ち着き、武田信玄狼煙会主催の信玄狼煙場巡りが昨年より再開されました。

昨年は塩尻市北熊井城址で行われました。本年は当地、下伊那での開催となり県内各地から歴史好きの皆さんや、狼煙リレー関係者が九月二十二日に松川町台城公園(大島城跡)に集まり現地で戦国の世にロマンを馳せました。残念ながら当日は朝から雨・風が強

中止も懸念され、結局豊丘からは私だけの参加となつてしまいました。そんな中おおよそ四十名の参加者が集まり狼煙場巡りが開催されました。

朝十時、本丸跡での開会行事の後、「おこないよ松川」の皆さんにより歴史考証に基づいた落城から現在に至るまでの紙芝居『台城今昔物語』を上演していただきました。続いて皆さんご存じの元松川町資料館館長、林里の酒井幸則先生に大島城についてのお話を伺い、その後先生の案内で城内を見学しました。この頃になると雨・風も収まり、蒸し蒸しでしたが、頭上から落ちる木々の雨つ

ていた「台城」のイメージがリアルに戦国のお城へ膨らみ、当時の典型的な武田流の築城術を目の当たりにできました。

毎日実家から天竜の対岸に見える今では桜やツツジまつりの台城公園ですが、こうして歴史的な背景や城郭としての学習をした上で改めて訪ねて見ると、また違った台城公園(大島城)を感じる事ができ、とても新鮮なひとときの体験となりました。

来年の狼煙場巡りの場所は決まっています。その時は皆さまにご案内いたします。地域の再発見、そして歴史を感じに出かけてみてはいかがでしょうか？

肌寒くなると里の木々や庭の草花にも、秋の色で華やか写真にとっては絶好の季節となつてきます。別に遠くまで出かけて観光地の秋を撮らなくても、身の回りには秋を表現できる素材に溢れています。目を凝らし発見し感動することこそ自分らしさを表現できます。

里山の秋と言えば稲刈り。入れ込んで稲刈りの情景として切り取ることも作品的には光るものがあります。稲ハザと田んぼと人物だけに動きをつけてラインを斜めに配置してそれぞれを配置しています。重要なことは人物にも動きが必要でただ立っているよりは何かしら行動を起こした時が写す良いタイミングです。

秋といえば紅葉です。葉を地面に落とし色のジュータンを敷き詰めたようにとても見事です。ダイナミックに地面を入れポイントとして後ろの木と色味を味として入れ込みました。これから秋本番、身の回りの秋を切り取りましょう。フォトマスター級 宮下正弘

### 令和6年度 武田信玄狼煙場巡り 松川町大島城跡(台城公園) 公民館長 市澤和宏

毎日実家から天竜の対岸に見える今では桜やツツジまつりの台城公園ですが、こうして歴史的な背景や城郭としての学習をした上で改めて訪ねて見ると、また違った台城公園(大島城)を感じる事ができ、とても新鮮なひとときの体験となりました。

### とよおか金馬寄席 「わかさぎ」の魅力を文化事業実行委員 原みほ子

九月十四日に行われまし「とよおか金馬寄席」には、豊丘村内外から大勢のお客様にお越しいただき誠にありがとうございました。毎回お越しいただいている方も、今回初めて生の落語を聞いた、という方も満足していただけたのではないのでしょうか。

豊丘村文化事業実行委員 金馬師匠は丸山先生亡き

丸山先生が繋いでくださった金馬師匠との縁をこれからも大切に長く繋ぎ続け村民の皆様笑顔をお届けできたらと思っております。

柿が実る頃にはこの地方特有の柿すだれが、農家の軒先に見え始めます。たわなに実った柿をパターンのように狙い、背景は青空よりも曇り日に柿の実が目立つように配置できたことで、ネイチャーらしい写真となりました。同じく土蔵小屋に枝垂れかか

秋といえば紅葉です。葉を地面に落とし色のジュータンを敷き詰めたようにとても見事です。ダイナミックに地面を入れポイントとして後ろの木と色味を味として入れ込みました。これから秋本番、身の回りの秋を切り取りましょう。フォトマスター級 宮下正弘

